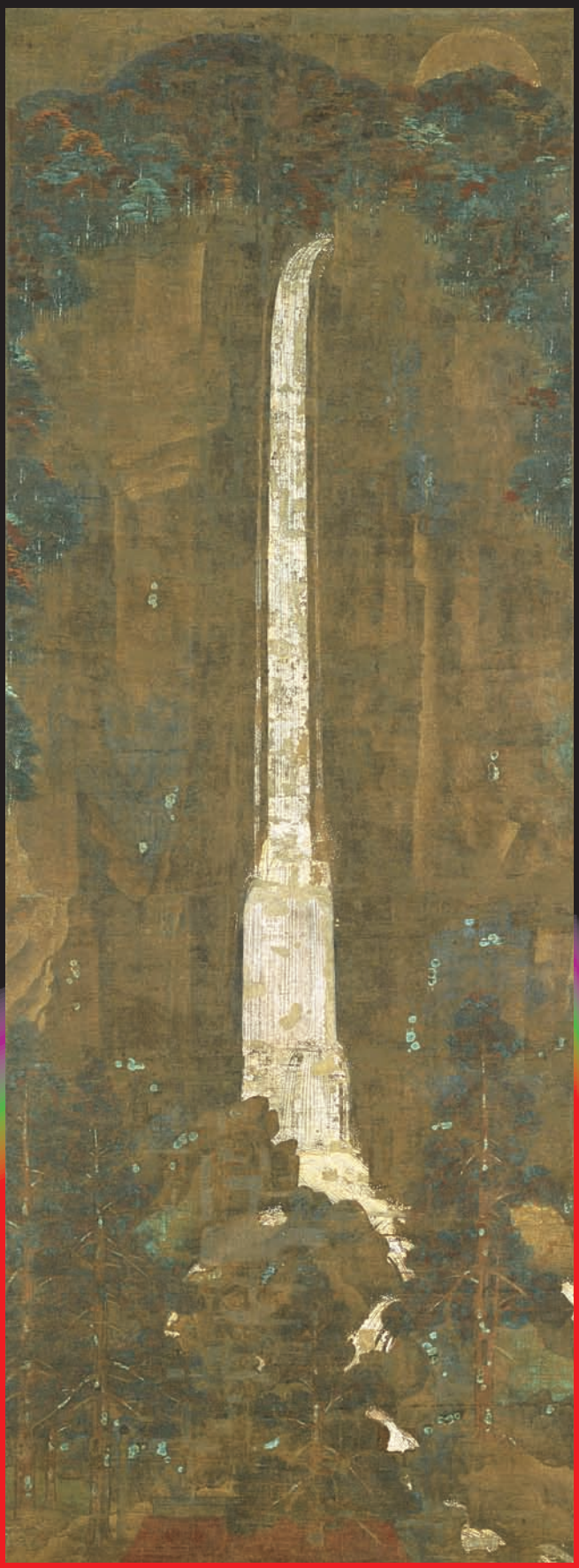
POWER OF CULTURE JUST NOW

災厄が日本を襲う。列島を無情の嵐が吹きすさぶ。生得の無常観こそ、日本人の生き抜く智慧・立ち上がる不撓不屈の真髄か。その精神性の根底には一体何が横たわっているのであろう。
今、再び立ち上がる日本人のこころを読み解く。

第9回 熊野学フォーラム

熊野を描く神品をめぐって

国宝「那智瀧図」の聖性!!



2012年
1月21日(土)
13:00~17:00(開場12:00)

会場：明治大学駿河台キャンパス
アカデミーコモン3階 アカデミーホール
(最寄駅はJR「御茶ノ水」徒歩3分、丸ノ内線「御茶ノ水」徒歩5分)

紀伊山地の懐深く、険しく重なる峰々、岩峰が迫る。眼前に現れる一条の垂直の白妙。その轟音の中に身を投じる。いつしかその響きが消え去り、静謐が身体に纏う。天空から下り落ちる水が、永遠の一瞬に凍りついているかのようだ。

大飛瀑は気高さを保ち、さらに月光に浮かび、神々しさを増す。天と地の秘めやかな対話、神と人との静かな対話が始まる。そしてわれわれを宇宙に導く。

Presented by Shingu

基調講演 13:10~14:00

十万億土の彼方にこころを馳せて
～ナイアガラの 滝を蹴飛ばし 那智の滝～

山折哲雄

特別講演 14:00~14:30

「那智瀧図」に迫る

清水 健

特別講演 14:45~15:15

自然表現の東と西

高階秀爾

熊野円座 くまのわろうだ 15:15~17:00

今、「那智瀧図」が語りかけるもの

熊野の聖性を示す真の主題は何か。日本人の感性は山中浄土観とともに、海上浄土観を重要なモチーフとしている。その結晶としての神の申し子、すなわち滝をモチーフとして、世界に名高い名品が生み出された。芸術と自然と信仰の交響、照応! 美術史から、宗教史から、その芸術性と宇宙観に迫ります。

高階秀爾
大原美術館 館長

清水 健
奈良国立博物館 研究員

西田宏子
根津美術館 副館長

林 雅彦
明治大学教授

山折哲雄
宗教学者

同日開催 17:20~19:00

交流の夕べ 参加費／3,000円(事前申込制)
会 場／アカデミーコモン2階

並行開催 パネル展
「花の正倉院 紀伊山地は貴重な植物の宝庫」
期間：2012年1月10日(火)~21日(土)
会場／アカデミーコモン1階エントランスホール
監修：熊野学研究委員会委員 瀧野秀二

●主催／和歌山県新宮市・明治大学 ●後援／文化庁(申請中)・和歌山県・国際熊野学会・熊野学研究委員会 ●申込先／明治大学 TEL 03-3296-4423 ●問合先／新宮市文化振興課 TEL 0735-23-3368